

10月8日(火)「金沢ニューグランドホテル」5階「銀扇」にて1423回例会が開催されました。野村会長のご挨拶では、ガバナークラブ公式例会記念事業「合同献血」での会員の方々のご協力に対し、改めて感謝の意を述べられました。また、金沢兼六ライオンズクラブの55周年のチャーターナイトに出席された際に伝統と文化に重きを置いた印象を受けられ、来年度に迎える金沢東ライオンズの60周年の参考にしていきたいとご挨拶されました。

各種報告・PR事項

社会奉仕委員長 L. 永野 琢也
献血街頭キャンペーン

9月16日に行われた献血街頭キャンペーンでは星稜大学の献血ボランティアサークルから16名の参加もあり、積極的な街頭キャンペーンが行われ、9月27日の「合同献血」では総勢200名程の献血者を集めることができ、日本赤十字社より感謝のお言葉をいただきました。皆様のご協力ありがとうございました。

世界ライオンズ奉仕デー

雨模様で足元の悪さも考慮し残念ながら中止となった世界ライオンズ奉仕デー、花菖蒲園・三社周辺の清掃活動は次回11月3日に行われますので、積極的に参加をしていただきますようよろしくお願いいたします。

地域環境委員長 L. 松尾 靖

卯辰山清掃・整備事業

9月23日に予定していた卯辰山清掃アクティビティは、台風の影響で中止とさせていただきますが、11月3日に順延させていただきますので、多数のご参加よろしくお願いいたします。



メンバースピーチ

中日新聞北陸本社 営業局長 L. 永松 智
1986年に中日新聞社に入社し13年間名古屋に勤務した後、東京、岐阜、金沢の地域で勤務しました。岐阜での勤務の際には、敢えてテレビ、ラジオを使用せず、周囲の音を感じるなどが豊かになる生活を体験しました。体調管理については、一時体重が増加し無呼吸症候群の恐れがあったため、毎日のウォー

キング、漢方薬の服用、正しい歩き方を実施することで体調管理をしています。

新聞業界については、1997年の総発行部数が5300万部でピークを迎え、2018年には3990万部と25%減少しています。減少の原因はウィンドウズ95の発売によりインターネットが一般的に使用できるようになり、更に2008年にiPhoneの発売があり、「ニュースは無料」という考えが一般的に定着したことが起因となっています。現在、北陸中日新聞社では読者の方がどのような記事を読みたいかを考え、また、世の中を明るくすることも新聞の使命だと考え、SDGsの記事を取り上げるなどの活動を2020年の11月1日の60周年に向けて取り組んでいます。



テールツイスター代理の三浦Lより、「天高く馬肥ゆる秋」の意味はというクイズがあり、北方の騎馬民族の匈奴が、秋も深まり空が高く澄んで馬も元気に肥えるようになると大挙して略奪にやってくるので警戒するよという意味がある。つまり、準備を怠ってはならないという戒めの言葉、警戒・警告の言葉であることを説明され、例会は終了しました。

L. 梶 和章

編集後記

人生訓の類の本はそこそこ読むんですが、久々に良書に出会いましたのでご紹介させていただきます。

『食えなんだから食うな(今こそ禅を生活に生かせ) / 関大徹 著』です。長らく復刻を待たれていた名著のようで、曹洞宗大教師が人生の意味を語られます。簡易な表現で言葉が自然と腹に落ちして読んだ後に清々しさ感じました。ライオン図書に進呈しようかなと思いましたが、読み返してみたい気持ちもあり座右に置くこととしました。ご興味のある方は是非ご一読ください。

L. 浦田 (東)

